



■防災ステーション宣言■

～地域の財産になろう～

2015/11/25

放送を巡る諸課題に関する検討会

茨城放送代表取締役社長
北島 重司

基本方針とプロジェクトIBS

「地域の財産になろう」→米国のラジオ局の実態

- ◆ プロジェクトIBS (茨城放送の愛称)
 - (I) = IT戦略(ネットとの融合)
 - ・ いばキラTV(茨城県のインターネットTV)へのコンテンツ動画有料提供
 - ・ スクーパー(FMカーでの中継)を動画配信
 - (B) = 防災報道強化(ラジオの使命。3・11で発揮が契機)
 - ・ 報道防災センター設置(2012年秋、センター長含めスタッフ4人)
 - ※ 具体的な取り組みは次ページから
 - (S) = ステーションイメージのアップ(地域貢献)
 - ・ レコードカフェ(2013年10月オープン、毎週土曜日午後開店)

防災ステーション宣言とは

- 放送局も被災することも念頭に
- 日常から準備
- 自治体、ライフライン団体との普段から協力
- 「防災ステーション」は、単なる防災情報を提供する機関というだけでなく、自分たちも被災者になることを想定して、いざという時にも必要な情報を何としてでも届けるという意思表示

例1) 茨城放送防災の日(毎月11日)



いわき市久ノ浜



北茨城市大津港



北茨城被災公営住宅



国交省の防災訓練

例2)

シェイクアウト訓練を提唱

米国生まれの防災訓練。安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を実施することがなぜ大切なのでしょう？いざという時にすばやく反応するためには頻繁に練習を積んでおくことが必要です。地震発生時、激しい揺れに襲われるまで、または何かが落下してくるまで、自分の身を守るためには数秒の猶予しかないかもしれません。いざという時に備えておくためには日頃の訓練が必要不可欠です。



水戸市のシェイクアウト訓練の様子

訓練の音声は茨城放送生まれ

- 2014年:日本で300万人、世界で2000万人以上参加
- 2014年3月13日の水戸市の訓練は8万人以上の参加(ラジオの音声で訓練開始は世界初の試み)
- 2015年は水戸、つくば市でも実施
- シェイクアウト提国会議の訓練の合図は茨城放送が協力して制作



例3) 鬼怒川堤防決壊では

- 9月10日午前6時30分ごろ、常総市若宮戸付近で越水
- 午後0時50分ごろ、同市三坂町で堤防決壊

【放送内容】(3.11を教訓に対応)

- 午前6時のワイド番組から気象情報放送→フリーゾーン(曲とトーク)はすべて水害に関する情報
- プロ野球ナイター中継は10日(木)、11日(金)休止

同じ水害で栃木放送とラインを結んで特集番組(栃木放送とは2014年1月、緊急時の相互援助協定締結)→ニッポン放送に入り中、LFネット番組入り中

【放送方針】

- ① 被災地の状況をできる限り中継で県民に知らせる
- ② 被災者目線で、どんな情報を必要としているか、の視点で放送する
 - 給水車の情報、無料入浴施設の情報、粗大ごみの受け入れ場所など
- ③ 現地中継班は2チーム(計4人)

鬼怒川堤防決壊での教訓

- ① 初動の取材、放送態勢の立ち上げが遅れた。
 - ・ 現場派遣が越水後。前夜に警戒態勢を取るべきだった。
- ② 取材者の安全確保が不十分だった。
 - ・ 対策本部の常総市役所が浸水して孤立、女性記者と男性アナウンサーが市役所に2泊。濡れたまま、廊下に仮眠。27時間、食事できず。
 - ・ 市役所駐車場で、無線カー1台が水没で使用不能になった。
- ③ Lアラートが機能せず→一時情報アップの充実
- ④ ネットワークによる大災害、大事故報道の強化

最後に

- 放送ネットワークの強靱化 (FM補完中継局の整備) = 情報インフラを強化する大きな契機 → FM補完中継局対応ラジオを避難所に提供
- 課題: ワイドFM対応受信機の普及
(車やスマホへのFMチューナー搭載)
- 地域のみなさんと放送局が一緒になって力強い茨城を創造していきたい

お疲れさまでした

